

一茶ゆかりの里四季の俳句会 (令和五年四月〜六月分)

選者 高山俳壇 高野悠子先生

特選 天一の笛つづく二の笛初河鹿 群馬県 篠原 庄治

山間のきれいな谷川に生息している蛙。美しく豊かに鳴く声を一の笛、つづく二の笛と畳み掛けたフレーズが初河鹿と調和してをり、共鳴した。

特選 地 卵塔の「寂」の一文字緑雨かな 群馬県 鈴木 百合子

緑雨の中禅寺を訪ねたのでしう・・・禅僧の墓は「寂」の一文字で、すべてを物語っている。省略された佳句。

特選 人 石楠花の空に孀恋ブルーあり 群馬県 岡本 政彦

石楠花の空が孀恋ブルーとは、その形容は言い得て妙。大地に咲く石楠花と天空の対比が良い。

入選 長閑けしや水切り石に乗って跳ぶ 群馬県 櫻井 なるみ

入選 過疎の地を染むる菜の花盛りかな 群馬県 仙田 美名代

入選 五月雨と故人を偲ぶ輪の中に 群馬県 竹渕 てる子

入選 種蒔いて未来を少し明るくす 群馬県 滝澤 照香

入選 小流れの瀬音賑わす蓬の芽 群馬県 宮崎 美智子

入選 泰山木風の梳きゆく高さかな 香川県 合田 庸太郎

入選 小学校の玄関好む燕かな 宮城県 福田 良光